

藻場調査（2018～2020年度）の結果概要

藻場調査(2018～2020年度)で整備した藻場分布図の全体及び海区ごとの面積を集計した結果、一部の閉鎖性海域等を除いた全国の藻場分布面積は1,643.4km²となりました。藻場タイプ別では海藻藻場1,225.7km²、アマモ場329.9km²、スガモ場87.8km²でした。また、全国を100%としてみた場合の海区別の藻場の面積割合は、四国-九州沿岸海区が29.5%と最も高く、次いで北海道沿岸海区（日本海沿岸と太平洋沿岸）27.8%、本州南部日本海沿岸海区14.8%、本州北部日本海沿岸海区11.1%、南西諸島沿岸海区6.9%、中部太平洋沿岸海区6.6%、東北太平洋沿岸海区3.0%、小笠原諸島沿岸海区0.2%の順でした。海区・藻場タイプ別の藻場面積等は、下表のとおりです。

表 海区別の藻場面積（単位：km²）及び海区別藻場面積割合（%）

海区		各藻場タイプ（※1）の面積			藻場面積 (km ²)	割合 (%)
		アマモ場	海藻藻場	スガモ場		
北海道沿岸	日本海沿岸	3.8	93.4	6.4	103.6	27.8
	太平洋沿岸	157.9	126.5	69.6	354.0	
東北太平洋沿岸（※2）		1.6	47.6	0.4	49.6	3.0
中部太平洋沿岸		9.7	98.3	0.0	108.0	6.6
本州北部日本海沿岸		31.9	149.8	1.2	182.9	11.1
本州南部日本海沿岸		16.6	216.4	10.2	243.2	14.8
四国-九州沿岸		6.1	479.2	0.0	485.3	29.5
南西諸島沿岸		102.3	11.1	0.0	113.4	6.9
小笠原諸島沿岸		0.0	3.4	0.0	3.4	0.2
計		329.9	1,225.7	87.8	1643.4	100（※3）

※1 藻場分布図の凡例となる藻場タイプは、アマモ場、海藻藻場、スガモ場の3つに区分しています。アマモ場は「波あたりの弱い内湾等の砂泥底で種子により繁殖する顕花植物の海草類の生育する場」、海藻藻場は「海草類のアマモ場、スガモ場以外の海藻類の生育する場」、スガモ場は「波あたりの比較的強い岩礁性の海域に生育するスガモ、エビアマモが主要な構成要素の一つである海藻混生藻場」とそれぞれ定義しています。

※2 東北太平洋沿岸の藻場面積は「平成27年度東北地方太平洋沿岸地域植生・海域等調査」のGISデータを、藻場調査（2018～2020年度）の藻場分布図の基本仕様を踏まえて再整理した結果。また、調査対象外の閉鎖性海域である東京湾、伊勢湾、瀬戸内海、有明海及び島原湾、八代海の藻場分布面積は含まれていません。

※3 各海区の割合を四捨五入したため%の加算値はちょうど100にはなりません。

藻場タイプ別の分布状況を整理したところ、砂泥底に分布するアマモ場は小笠原諸島沿岸海区を除く各海区でみられました。特に、北海道沿岸海区の太平洋沿岸の内湾、汽水湖や本州北部日本海沿岸海区の陸奥湾などに比較的大きな分布のまとまりがみられました。また、南西諸島沿岸海区でもサンゴ礁地形の中にホンダワラ類との混生も含め、比較的まとまって分布していました。

岩礁上に分布するスガモ場は、北海道沿岸海区、東北太平洋沿岸海区、本州北部及び本州南部日本海沿岸海区でみられました。本州南部日本海沿岸海区では、エビアマモを構成種とするスガモ場でした。

スガモ場と同様に岩盤や岩礁、礫上に分布する海藻藻場は全ての海区で分布が確認され、北海道沿岸海区の太平洋沿岸、南西諸島沿岸海区を除く各海区で最も広く分布していました。